

生活

✉ seikatsu@asahi.com

人工心肺装置扱う認定士 深刻な地域偏在が判明

人工心肺装置を操作する体外循環技術認定士は心臓手術の安全性を高めると期待されている。しかし、地域偏在が著しいことが、日本人工臓器学会と日本体外循環技術医学会のまとめでわかった。西日本での不足が目立つ。心臓手術の専門医を認定する機構は、認定士がいることを数年以内に専門医研修施設の要件に加え、偏在解消を目指す。人工心肺は一般的に国家資格の臨床工学技士が操作する。認定士は工学技士の「上

不在の病院で事故も

乗せ資格」として心臓手術の関係学会が認定している。現在、認定士は全国に720人。所属施設がわかる682人では東京都の113人が最多で、神奈川県66人、愛知県59人と続く。5人未満は秋田、福島、山梨、鳥取、山口、徳島、愛媛、佐賀、宮崎、鹿児島など17県。昨年末、心臓血管外科専門医の研修施設でもある大学病院のうち21病院に認定士がおらず、8割は西日本だった。偏在解消の必要性を関係者

に感じさせる事故が2月、鹿児島大病院であった。患者の体につないだ人工心肺を操作する臨床工学技士が、回路の途中の鉗子を外すのを忘れ、取り出した静脈血をためる容器が空になり、空気が動脈に混入。患者は脳梗塞で重い障害が残った。静脈血をためる容器内の血液レベル低下を知らせるセンサーが設置されていなかった。

日本人工臓器学会の富澤康子・前教育担当理事(東京女子医大心臓血管外科)は「認定士資格を得るためのセミナーでは人工心肺のトラブル対処法なども学ぶので、安全への意識が変わる。心臓手術を行う基幹施設や大学病院に配置を義務づけるべきだ」と話す。(編集委員・出河雅彦)

日本体外循環技術医学会は07年、センサーの設置などを広く勧告、同病院の院内マニュアルも設置を定めていた。同病院は専門医の研修施設で、事故当時、人工心肺の操作を担当する臨床工学技士は3人いたが、認定士はいなか